

第一回関東地区海事観光推進協議会 議事概要

1. 日程等

日時：令和2年10月28日(水) 10:00～12:00

場所：関東運輸局16階会議室

2. 協議会構成

座 長：篠原 靖(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部准教授)

協会団体：関東旅客船協会・屋形船東京都協同組合・(公社)日本観光振興協会関東支部

旅行者：東武トップツアーズ(株)・(株)近畿日本ツーリスト首都圏・(株)日本旅行

自治体：千葉県・東京都・神奈川県

運輸局：局次長、観光部長、海事振興部長、海事振興部次長、旅客課長、海上安全環境部海事保安調整官

3. 議題

1. 協議会の概要及び設立趣旨説明
2. 旅客船事業者から取組報告
【詳細は別添各社資料を参照】
3. その他(意見交換等)
4. 今後の進め方について



【主な意見(概要)】

○篠原先生コメント

- ・船舶業界として感染対策の見える化。
- ・旅先の具体的な体験内容を個人で選んで組み合わせることが出来るか。
- ・アクセスやコンテンツの連携
- ・消費者へ情報をどうやって到達させるか。

○旅客船事業者より

- ・1～3月頃より新型コロナの影響が出始め、4～6月の減少が顕著であった。
- ・新型コロナ感染症対策はしっかり行っているものの、開放感からか船内でマスクを外してしまう乗客が多く、船内アナウンスなどで周知しているものの、感染防止対策への理解を求める対応に苦慮しているところ。
- ・C to Sea プロジェクトをはじめとする「海・船の魅力の発信」や、新型コロナによる旅客船への風評被害の払拭など、旅客船に関する認知度『有効かつ効果的な情報発信』が業界共通の課題であり、本協議会で検討を進めて欲しい。
- ・桟橋へのアクセスについて、MaaSの推進も含め、鉄道・バスなどと一体となった二次交通の連携も重要。

○旅行事業者より

- ・目的地へ行くこと、船に乗ることなど目的の整理・明確化が重要。
- ・船の魅力を効果的に発信することが重要。
- ・コロナ禍にあっては「前もって計画」より「状況を見ながら」といった「お手軽感」が有効。
- ・「データ」「傾向」とは関係のないところで「イノベーション」をどのように起こすかが重要。
- ・まだ船の魅力を知らない人が多いので、船の楽しさを、ターゲットを絞って協議会で情報発信していくことも重要。

○自治体より

- ・コロナ禍の中でファミリー層を狙うのか、カップル層を狙うのか、ターゲットの掘り起こしが重要。
- ・「体験型観光」のコンテンツ育成と旅客船のマッチアップが必要。
- ・移動手段としての「旅客船」に新たな「船の魅力」の創出ができないか。

○篠原先生(総括コメント)

- ・今後、分科会的な場で、旅行会社側のアイデアも盛り込みながら検討を進め、第2回協議会に繋げていきたい。
- ・検討の前提として、昔の集客パターンと大きく変わっていることも念頭に置きたいひとつ。
- ・新型コロナ感染防止対策についても、先行して取り組む船社の事例を共有するなどして、いかに「船旅が安全」というPRに繋げていけるのか。
- ・また、地域の魅力との連携や、船に乗る魅力の発掘など様々な課題を洗い出し、本協議会で検討を進めその検討内容(結果)を関東旅客船協会が傘下の旅客船事業者に発信し、旅客船業界で認識を共有することが重要。



【今後の進め方】

○検討の「分類化(グループ化)」

- ・航路距離や運航エリア(海上・港内・湖川などの「内水面」など)船型などを基準に「セールスポイント」や「課題」が共通する事業者を分類(グループ)分けした上で「分科会」的な組織を構成し、論点を整理し有効な情報発信方法や商品開発の可能性などについての意見交換・検討を進める。

○各検討の「統合化」

- ・グループごとの検討の中で、情報発信や商品開発に関する各グループ間のメニュー統合への「可能性」や「課題」を抽出。

○実証、支援に向けた取組

- ・情報発信や商品開発に向けた実証や支援に即した令和3年度予算による制度(メニュー)の発掘・公募・採択に向けた体制づくりや申請をサポートする取組を進める。